

単元名	表現	配当時間	8時間
単元の目標	(1) 互いのよさを認め合い、協力して練習や発表をしようとする。 (2) 自分やグループの特徴を生かした表現に取り組んだり、練習や発表の仕方を工夫したりすることができる。 (3) 身近な生活の中から題材を選んで、動きに変化と起伏を付けて表現し、みんなで踊りを楽しむことができる。		
単元を構想する上での留意点	表現運動は、自己の心身を解放し、リズムやイメージの世界に浸り、なりきって踊る楽しさを味わうとともに、互いの違いやよさを生かし合い、仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 しかし、表現運動に抵抗感をもつ児童も少なくない。まずは抵抗感や恥ずかしさを取り除き、児童をその気にさせるための工夫が必要である。アップテンポな音楽などを利用してリズムにのってほぐしを行う中で、体だけでなく心もほぐすようにする。また、イメージバスケットなどの方法を用いて、イメージを広げて思いつくまま自由に踊らせる。		
単元展開例			
準備	アップテンポの曲：「晴れたらいいね」（ドリームズカムトゥルー） 「シェイク」（スマップ）、「ラブマシーン」（モーニング娘） など児童の親しみやすい軽快な曲 地球をイメージさせる曲：「惑星」（ホルスト）「天空の城ラピュタ」（スタジオジブリ） など カセットCDプレーヤー、模造紙（イメージバスケット用）、太ペン、学習カード、メッセージカード など		
学 習 活 動		留 意 事 項 な ど	
1 表現の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 地球についてイメージしたことを表したい感じが強まるように工夫して踊ろう ○学習カードの使い方を知る。 ○地球についての本やビデオなどを見て、イメージを広げる。 ○地球のイメージバスケットをつくる。 2～4 地球のいろいろなイメージを思いつくまま自由に踊って楽しむ。（ねらい1） ○リズムにのって体ほぐしの運動をする。 ○毎時のテーマにしたがって、いろいろなイメージを思いつくまま次々と踊って楽しむ。 テーマの例 第2時「地球誕生」 第3時「地球の成長」 第4時「生命の誕生と絶滅」 など ○気に入った動きを繰り返し、ひと流れの動きにする。 ○ペアグループで見せ合い、アドバイスをする。		・第1時は教室での活動となる。 ・「地球」をテーマにイメージを広げ、作品をつくることを知らせる。 ・個人の学習カードに思いついた地球のイメージを絵や言葉でかき込み、それをクラス全体に広げ内容を豊かにしていく。 ・クラス全体のイメージバスケットを模造紙に書きこむ。 ・クラス全体のイメージバスケットに記入されている題材を次々に選んで踊らせる。 ・2～3人のグループで、リーダーを題材ごとに変えて踊らせる。 ・グループは毎回変え、気軽にだれとでも交流できるようにする。 ・始めと終わりのポーズを決め、その間に中心となる動きを繰り返して入れて、ひと流れの動きをつくらせる。 ・2グループでペアグループを作り、互いに見せ合って、相手グループのよい動きや改善するとよい点などについてアドバ	

○反省し、まとめをする。 ・楽しかったこと ・友達のよい動き など 5~7 イメージ別グループで表したい感じが強まるように、動きを工夫して踊り、発表し合って楽しむ。 (ねらい2) ○イメージ別にグループを作る。 ○グループで一番表したいことを見つける。 ○表したいイメージやめあての確認をする。 ○一番表したいところがよくわかるように、動きを工夫して踊る。 ○グループでお互いに見せ合ってアドバイスをし合う。 ○踊り込む。 ○反省し、まとめをする。 ・動きの工夫 ・次時のめあての把握 など 8 発表会をする。 ○グループごとに作品を踊りこむ。 ○発表会をする。 ○友だちのよいところを見つけ、メッセージカードに書いてプレゼントする。 ○単元のまとめをする。	イスさせる。 ・イメージバスケットの中からやってみたいイメージを選ばせる。 ・同じイメージにたくさん集中した場合はその中でグループを分ける。 ・ねらい1で気に入ったイメージや動きを思い出させながらグループで自由に踊らせる。 ・地球をイメージさせるようなBGMを流す。 ・学習カードに記入させる。 ・「はじめ」「なか」「おわり」の3場面で作らせる。起伏のある作品にするためにどこを盛り上げるか決め、他の場面は違う感じの動き(静と動、緩と急のように)で構成させる。 ・ラストシーンを印象的にさせる。 ・よい作品の観点を知らせ、その観点を意識させて踊らせる。 ・よい作品の観点 正面がはっきりしている 場所を広く使っている 体いっぱい使って精一杯踊っている 目、首、背中、手、足、指などを意識して動かしている など ・イメージ豊かな動きをしていたり、動きのかけ合いができていたりするグループを紹介する。 評協力して踊り込む活動を通して、「関心・意欲・態度」を評価する。 ・単元のまとめとして、学習の成果を発表させる。 ・表したい内容にするためにグループだけでは人数が足りない場合は、他のグループから踊り手を募集して迫力を出すなどグループワークを越えた表現に発展させ、作品の楽しみ方をより広げることもできる。 評発表会を通して、「思考・判断」「技能」を評価する。 ・友だちのよさを見つけようとする気持ちを育てていくようにする。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。
--	--